

# JREL 仙台 組織部情報

J R 東労働組合仙台地方本部組織部

2020年 6月 3日

発行責任者 大越 和人  
NO. 31

特集

## 新型コロナウイルス 「正しい情報」より 「恐怖を伝えること」が目的化したテレビ

3月29日に、志村けんさんの死去が報じられ、テレビからは「志村さんは新型コロナの恐ろしさを教えてくれた」というコメントが語られていました。

また、4月23日に岡江久美子さんが死去した際には、報道陣が詰めかけて、遺骨となって帰宅する様子が生中継され、アナウンサーが「**コロナで死ぬと、最後のお別れもできないんです!**」「**これがコロナの恐ろしさです!**」と実況しました。このような報道には批判の声が上がり、「新型コロナがいかに恐ろしいものなのか、その無情さを伝える必要もあるという観点から、この映像を流すことに致しました」と説明する番組までありました。

コロナ死者が遺族と対面もできずに遺骨となって帰宅することは、なんとなく「仕方がないこと」として受け取られている向きがありますが、**実は違います。厚生労働省の公式見解にはこう記されています。**

「感染拡大防止対策上の支障等がない場合には、通常の葬儀の実施など、できる限り遺族の意向等を尊重した取扱をする必要があります」  
「遺体が非透過性納体袋に収容、密封されている限りにおいては、特別の感染防止策は不要であり、遺体の搬送を遺族等が行うことも差し支えありません」  
「火葬に先立ち、遺族等が遺体に直接接触することを希望する場合には、遺族等に手袋等の着用をお願いしてください」

**衛生対策さえできていれば、最後のお別れはできるのです!**

マスコミのずれた過熱報道によって新型コロナは  
すっかり「死の感染症」のようなイメージになったと思いませんか?

**マスコミ報道を鵜呑みにせず**

**冷静に見る目も養おう!!**